

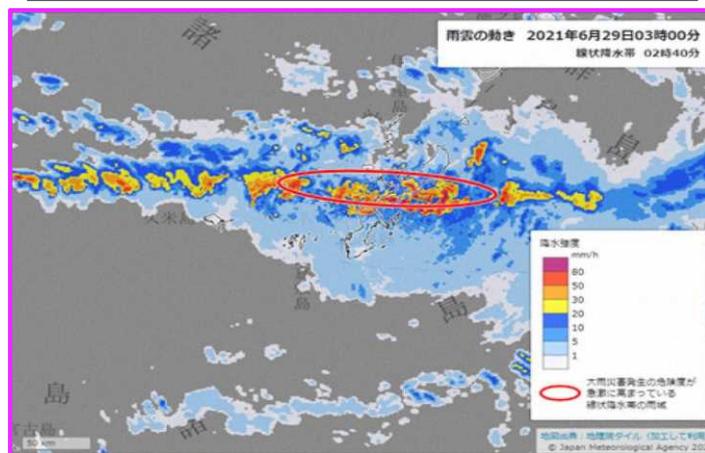
## 線状降水帯予測を6月1日から開始

近年、線状降水帯による大雨によって毎年のように甚大な被害が引き起こされています。現在のところ、甚大な災害を引き起こす線状降水帯の発生を正確に予測することは困難ですが、災害被害軽減のための第1歩として、早めの避難行動につなげることを目的に6月1日から線状降水帯による大雨発生の可能性を予測し、「沖縄地方」など大まかな地域を対象にした半日前からの情報提供を開始しています。

### 【線状降水帯とは】

次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなした積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をともなう雨域を「線状降水帯」といいます。

令和3年6月29日の沖縄本島地方での例



気象庁では、線状降水帯予測精度向上を喫緊の課題と位置づけ、産学官が連携して世界最高レベルの技術を活用し、船舶GNSSによる洋上の水蒸気観測の強化や大学等の研究機関と連携した予報モデルの開発を前倒しで進めています。

### <令和4年度の実施内容>

#### 水蒸気観測の強化と集中観測の実施



#### スーパーコンピューター「富岳」の活用



防災気象情報は、テレビ・ラジオ・またはホームページから 石垣島地方気象台はこちらから

石垣島地方気象台ホームページ <https://www.data.jma.go.jp/ishigaki/>

※ ホームページは、スマートフォン対応済みです。

お問い合わせ先：石垣島地方気象台 電話番号：0980-82-2170



気象庁マスコット  
はれるん